

6月定例会 一般質問要旨

本市の道路整備について



太田クラブ 大川 敬道

議員 市民満足度アンケートにおいて、道路網の整備は過去2年連続で最下位となっている。重要度は高く、市民ニーズと実際の施策にギャップを感じます。道路整備課において受け付けをした一番古い陳情案件と、陳情道路の案件の状況について伺います。

都市政策部長 一番古い陳情は平成3年8月21日受け付けの新田小金井南地区からの陳情です。陳情案件のうち未着手案件が216件あり、受け付けから時間が経過して状況が変わっている場合も考えられ、地元で精査してもらうために各地区に一度お返ししました。優先順位付けや取り下げを含めて検討して再度提出いただくことで、整備が効率化すると考えています。

議員 農村整備課において受け付けをした一番古い道路の陳情案件と、道路に係る未処理案件の状況、また、地域に差し戻す考えはあるのか伺います。
農政部長 一番古い案件は平成2年12月17日受け付けの新田大根町の道路陳情です。本年3月末現在で道路に係る陳情の未処理件数は、実施中の未完了案件を含めて79件です。陳情受理後

に相当年数が経過しているものについては、現地の再調査を実施し、地域の開発状況の変化等を踏まえ、差し戻して地元で判断をいただくことも視野に入れ、検討したいと考えています。

議員 道路陳情に対する対応が遅いように思われますし、受理した以上は責任があると思えます。道路陳情に対する整備予算の拡充を図るべきと思えますが、市長の所見を伺います。

市長 案件の中には整備する必要性の低いものも見受けられます。限られた予算ですので、少しの我慢で済むような状況であれば、その分の予算を教育現場などに充てたいと思えます。ぜひ現地の状況を確認のうえ、議論いただきたいと思います。

議員 ご当地ナンバー制度の概要について伺います。
企画部長 地域振興や観光振興の観点から、地域の要望に応じた新たな地域名を定めるものです。過去にも2回募集が行われており、今回は図柄入りのナンバーの募集となっています。
議員 ご当地ナンバーの申請条件等について所見を伺います。
企画部長 対象地域内の登録自動車数が10万台を超えることが必須条件であり、関東運輸局の資料による本市の登録台数は、平成28年3月31日現在で自家用と事業用を合わせて10万36台です。また、図柄入りのナンバーであること、複数の自治体で取り進む場合には、構成する全ての自治体の合意を得ることが必要です。

本市におけるご当地ナンバーについて



太田政友クラブ 岩崎 喜久雄

議員 先日、私が国土交通省に電話で問い合わせをした際には、ご当地ナンバーの推進について非常に積極的であるように感じました。ナンバープレートに太田という表示を入れることは、本市を効果的にPRできる絶好のチャンスであると考えますが、市長の所見を伺います。

市長 ご当地ナンバーの導入によって、その地域の様子に思いを巡らせてもらえると同時に、その名称は美しいものが良いのではないかと考えています。本市に当てはめると、自然と人にやさしいということを標榜していることから、「渡良瀬」や「新田山」などが良いと思っています。

議員 例えば、平仮名で「おた」と表記する方が、PR効果が高いのではないかと考えますが、所見を伺います。
市長 単に本市の名称をPRするだけでなく、美しい響きの名称としたり、自治体をまたいだ地域全体をPRしたりする方が長期的には有益と考えます。

行政手続きの簡素化による事業者の生産性向上について



太田クラブ 渡辺 謙一郎

議員 国の日本再興戦略の規制改革推進会議行政手統部会において、取り組むべき項目の中に行政手続きの処理時間短縮があります。これは国だけでなく地方自治体も取り組むべきと考えます。本市の道路占用許可の申請と許可の状況について、他の状況も含めて伺います。

都市政策部長 道路占用許可申請の受け付けは随時行っていますが、上水道に係る申請は群馬東部水道企業団が取りまとめ、週に2回申請を行っています。昨年度の許可件数は2010件で、うち上水道に係る工事案件

は1019件です。上水道に係る案件の許可までの処理日数は、現地確認も含めて平均7.1日です。他市の状況は、みどり市は処理件数が259件、処理日数が最短2日で最長7日、館林市は件数424件、処理日数は平均7日程度ですが、両市とも現地調査は行っていません。

議員 数十件まとめて申請した場合、一部に書類の不備があると、全ての許可が遅れると聞いています。これの改善と、上水道に係る受け付けを随時行うことについて所見を伺います。
都市政策部長 書類不備以外の案件部分は許可証が発行できるようにするとともに、上水道に係る急ぎの案件は随時受け付けできるように、群馬東部水道企業団と協議したいと思えます。

議員 申請件数の多さに対応するため、職員を増員するなどして事務処理を迅速化することと、利便性向上のための申請の電子化について、市長の所見を伺います。
市長 事務処理に要する期間は短いほど良いと思っております。また、その一方で現地確認等のチェックを正確に果たす必要もあると考えます。申請の電子化は、その申請を出す人たちに對して、必要性があるのか確認をしてみたいと思えます。

雨水排水問題とその対策について



創政クラブ 今井 俊哉

議員 気象庁の資料によれば1976年以降、1時間当たり降水量が50ミリ以上の、非常に激しい雨の年間発生回数が増加傾向とことです。都市化が進むことで雨水が地下浸透しにくくなり、本市でも道路の冠水などの雨水排水問題が発生していると思えますが、発生箇所における対策状況を伺います。

都市政策部長 東矢島町や東別所町の七ヶ村用水路と、東新町、西新町付近は、素掘り水路の改修を実施して排水性の向上を図ります。由良町においては今年度、排水計画を作成予定で

す。戴塚地区においては、農地防災事業によって幹線排水路や調整池の整備が進んでおり、これらを利用した排水計画の策定を11月末までに完了予定です。
議員 旧戴塚本町の大久保地区は農業が盛んであり、小玉スイカ等のブランドを支える産地でもあります。今後の同地区の雨水の排水計画を伺います。

農政部長 県が主体の県営農村集落基盤整備事業を実施しており、平成32年度の事業完了に向け、農地および集落内の排水設備の設置を図っています。なお、排水路に流入した雨水については、5カ所の調整池に集水して地下浸透処理する予定です。
議員 災害防止やまちづくり、農業基盤整備の観点からも、雨水排水問題の解決は非常に重要であり、市民の関心も高いと考えます。この問題に対する本市の取り組みに対して、市長の所見を伺います。
市長 地形的なものも含め、さまざまな要因によって雨水排水問題がどうしても解決不可能な場所もあり、これについては手の打ちようがありません。しかし、七ヶ村用水路や東新町、西新町、戴塚地区の状況については解決する方法があります。対応していきたいと思えます。

その他の質問 観光地における案内板等の管理方針について